

ライフ・ステージ別にみた満足度と課題

J-I-L-P-T 主席統括研究員 浅尾 裕

今回の調査の意義

J-I-L-P-T「平成二二年度日本人の就業実態に関する総合調査」は、個人を対象とした文字通り「総合調査」である。働いている人々とともに現在無業の人も対象に、調査時点での日本人の就業に関する基礎的なデータが網羅的に整備されたといつてよい(1)。それぞれの項目の結果についても意義があるが、個々には他の調査でも知ることが出来るものが多い。それらは、この調査が今後数年おきに実施されて、時系列比較ができるようになることにより意義のあるものとなることが期待される。第一回目である今回の段階では、通常の場合と同じ調査の中で把握されることがあまりない項目同士をクロスしてみることに、より多くの価値がある。詳細な分析には必ずしも適さないが、何らかの問題意識を持った場合に、この調査データを使って素朴で基礎的な分析をしてみれば、ある程度の方向感を持つことができると思われる。その意味でJ-I-L-P-Tの宝として大切に活用していきたいものである。

ここでは、個人を対象とした調査ならではのものとして、人々のライフ・ステージ別にみた満足度について、素朴で基礎的な分析をした結果を紹介したい。どことなく「元気がない」印象のあるわが国の現状に関して、どうした層にどのような課題があるのかを垣間見ることが出来るのではないかと考えた次第である。

ライフ・ステージの集計上の定義

ここでは、ライフ・ステージを次のように定義した。すべての人々がこれを順次経験するという想定ではないので、年代との関連は希薄にしてある(2)。したがって、ライフ・ステージというよりも「世帯類型」といった方がよいかも知れない。

「学校時代」：二〇〜二九歳で在学中、無業又は「アルバイト」の人。

「独身時代」：学校を卒業し、配偶者も子どももない五九歳までの人。

「夫婦時代」：学校を卒業し、配偶者のいる人で、子どものいない五九歳までの人。

「育児・子育て期」：学校を卒業し、配偶者と子どもがいる五九歳までの人。

「父子・母子世帯」：学校を卒業し、現在配偶者はいないが子どものいる五九歳までの人。

満足度の取扱い

「引退前期」：六〇〜六五歳の人(3)。

今回の調査では、仕事に関する満足度として、「仕事全体」とともに「賃金・収入」や「労働時間、休日・休暇」など九項目について、さらに「自分の生活」について、「満足」から「不満」まで五件法で回答を得ている。そこで、それぞれの回答者(ケース)で「満足」であれば二を、「やや満足」には一、「どちらともいえない」に〇、「やや不満」にマイナス一、「不満」にマイナス二を与えて数値(コード)化して分析することとした。たとえば、あるグループについて数値化した満足度の平均が「〇・八」となれば、「やや満足」の範囲の中で少し「満足」方向に寄ったくらいに重心があるのだと評価できる。なお本稿では、誤読を防ぐために、マイナスを表す記号として本文中では「▼」を用いることとした。「マイナス一」は「▼一」と表記する。

ライフ・ステージ別の満足度概観

それぞれのステージごとに満足度の平均をとつてみると、「独身時代」の満足度の低さがみられる。男性では「独

身時代」は「父子世帯」とともに満足度は低く、どちらも「仕事全体満足度」は▼〇・一一とわずかではあるが不満方向に重心がある。女性はプラス方向であるものの満足度は低く、とりわけ「仕事全体満足度」は〇・〇七とわずかなプラスにとどまっている。

また、男性の「夫婦時代」(就業者ベースで「生活満足度」は〇・五九に対して「仕事全体満足度」は〇・一四)や「育児・子育て期」(同〇・四八に対して〇・一七)では、「生活満足度」に比べて「仕事満足度」が相対的にかなり低くなっている。女性では、男性と比較すると水準そのものは高いものの「生活満足度」に比べて「仕事満足度」が相対的に低い傾向は同様にみられる(図1-11及び図1-12)。

ステージ別に満足度をみたとき、「父子・母子世帯」をしばらく置くとすれば、「独身時代」の満足度の低さが目立っている。また、他のステージでは「生活満足度」が総じて高めであるのに対して、「独身時代」では「生活満足度」も「仕事満足度」と同程度に低調である。さらに、「生活満足度」の低さは「仕事満足度」の低さによつているところが大きいともいえる状況にある(4)。紙幅の関係もあつて、他にも注目すべき層もあるが、本稿では「元気がない」(「元気が出せない」)層の第一として「独身時代」、その中でも特に男性に焦点を合わせて今回の調査結果をみていくこととした(5)。

「賃金・収入」のほかの項目にも注目

項目別の仕事満足度をみてみよう

図1-1 生活と仕事の総合満足度（男性）

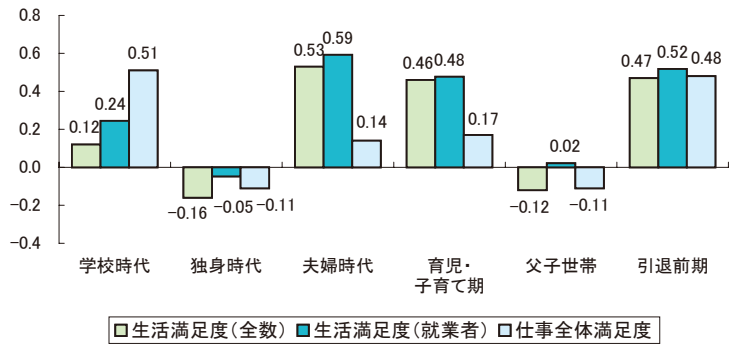
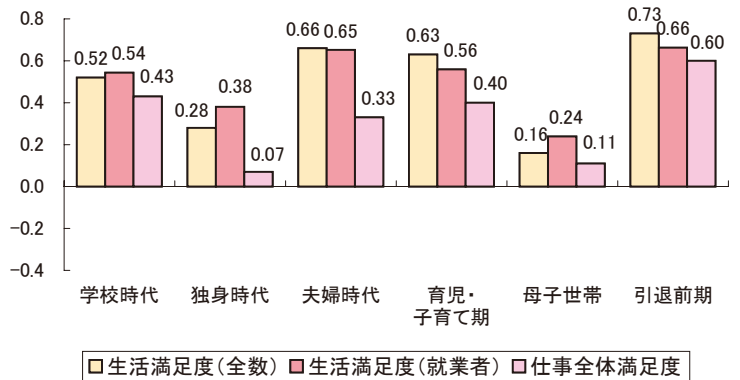


図1-2 生活と仕事の総合満足度（女性）



資料出所：JILPT「平成21年度日本人の就業実態に関する総合調査」データから作成
 (注) 仕事に関する満足度は、現在仕事のある人(就業者)の回答である。

（図2）⑥。まず「独身時代」の男性をみると、「賃金、収入」満足度が▼○・五二とかなり低いことが目立っているとともに、「評価」（調査票上の表記について、他の項目も含めて図の脚注参照）が▼○・二一と次いで低く、「労働時間」、「仕事の量」、「安定性」、「能力開発機会」などが不満方向に重心がある。このうち「賃金、収入」や「評価」などの満足度の低さは他のステージにある男性にもみられるところであるが、「雇用・就業の」「安定性」は他のステージとはかなり異なる状況であるといえる。また、「独身時代」の男性においても満足度がプラスとなっている。「仕事の内容」や「人間関係」についても、その水準は他のステージより相対的に低くなっ

ている。一方、「独身時代」の女性についてみると、「賃金、収入」及び「評価」の満足度がマイナスになっているなど、男性に比べてそれぞれの項目で○・一〇・二ポイント程度水準が高くなっているものの、総じて同じようなプロフィールであるといえる(7)。

まずは、男性を中心とした「安定性」満足度の低さに着目したい。

雇用・就業形態別満足度から

雇用・就業の「安定性」ということから、まずは雇用・就業形態別の満足度をみることにしよう。表1が「独身時代」の男性について雇用・就業形態別に満足度(コードの平均値)を集計

した結果である。ここでの雇用・就業形態は職場での呼称をベースに区分されている。

「安定性」の満足度をみると、正社員では○・〇七とわずかながらプラスであるのに対して、アルバイト(▼○・九三)、派遣労働者(▼○・八三)などフルタイム系の非正規雇用の方は強い不満(安)感を持っていることがわかる。新規卒卒労働市場の構造変化の中で、若年期において非正規で働く人々の増大が、「独身時代」男性の満足度の低さの背景にあることは間違いないであろう。

しかし一方、正社員となった場合にも問題があることが示されている。一つは「安定性」の満足度が満足域・不満域の境界ぎりぎりにあり、高いとはいえないことである。「安定性」だけで見れば、パートの方が上回ってさえいる。他のステージでは、正社員の「安定性」満足度は○・五程度あるのに比べても低いといえる。このこともあつて、「独身時代」男性正社員の「仕事全体」満足度は▼○・一一と不満域に重心がある。「生活満足度」は、正社員のみが満足域にあり、非正規の各形態はすべてマイナスで不満域にあることは留意が必要であるが、仕事に関する満足度については、正社員にも課題があるといえる。そこであらためて表1の項目別満足度で見ると、正社員の「労働時間」満足度は▼○・一八と、アルバイトを除きもとも低くなっている(8)。「労働時間」以外にも、「賃金、収入」や「仕事の量」、「能力開発機会」、「評価」でも満足度はマイナスとなつてい

る。もとよりこれらも問題として認識する必要があるが、これらの項目については非正規でも正社員を上回って満足度が低くなつており、雇用・就業形態別の視点からは、とりわけ「労働時間」が正社員の問題として浮かび上がる。

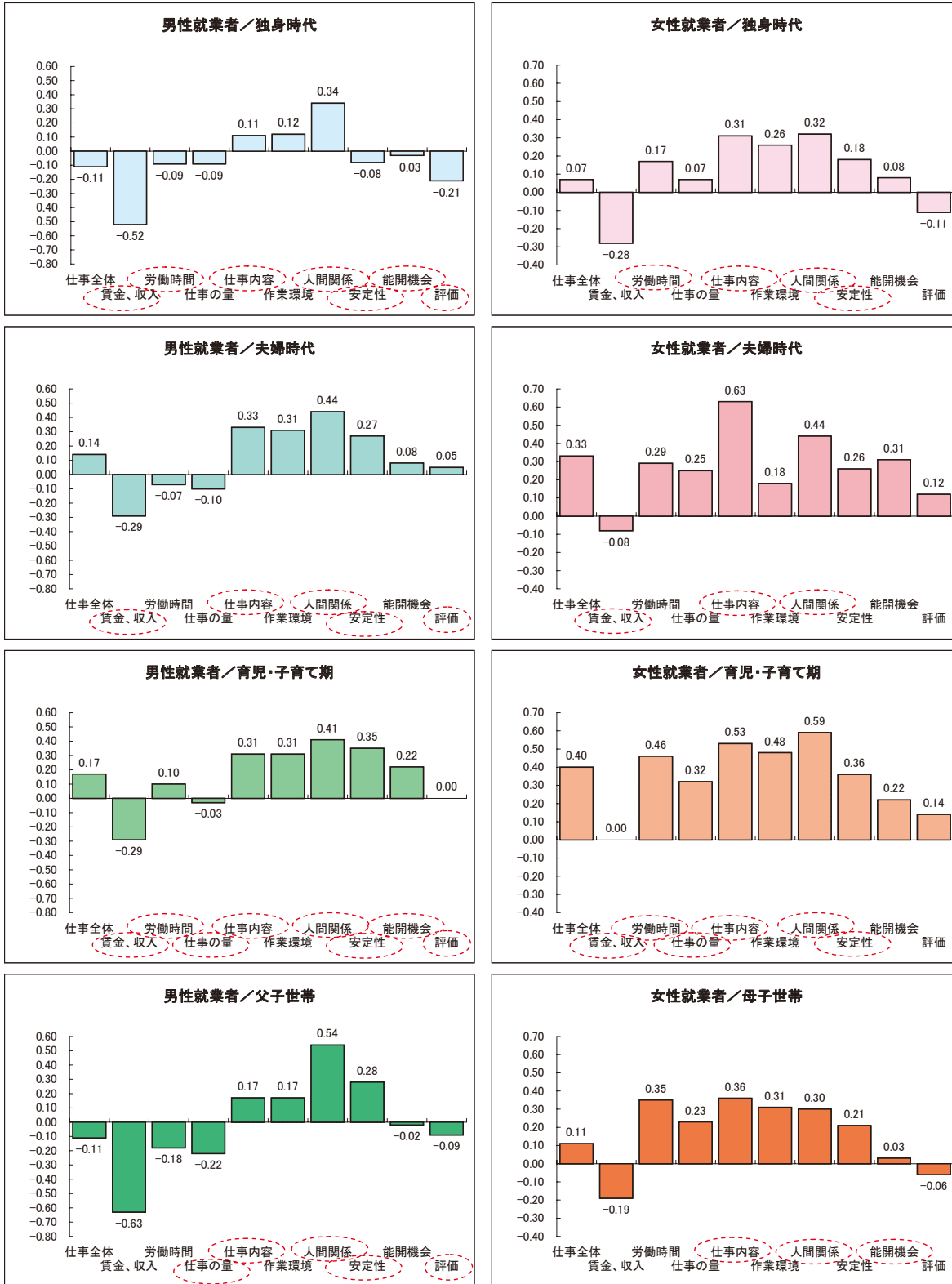
また、上述のように「能力開発機会」の問題が、「独身時代」男性の正規・非正規共通の課題としてある。「能力開発機会」の満足度を雇用・就業形態別にみると、派遣労働者が▼一・〇八でもとも低く、次いでアルバイト(▼○・四七)、契約社員(▼○・二〇)が続き、正社員(▼○・〇四)もわずかながら不満域にある。

「能力開発機会」の満足度は、能力開発に対する動機先の熱心度に影響されると考えてよいであろう。今回の調査では、例えば「会社は社員の能力開発に熱心である」という設問をし、これに対する「当てはまり」度を尋ねている。その結果を雇用・就業形態別にみると、図3のようになっている。派遣労働者で「当てはまる」と回答した割合は二・五%にとどまっているのをはじめ、アルバイト、契約社員などで肯定方向の回答割合が相対的に低くなつている。また、正社員でも、「当てはまる」と「やや当てはまる」とを合わせて半数をやや上回る割合にとどまっている。

「独身時代」男性の不満のワケ

調査から、働く人々の満足度をライフ・ステージごとに見ると、男性を中心に「独身時代」の満足度が生活面・仕事面ともとりわけ低くなつていた。そこで、仕事の項目別満足度を通して

図2 男女就業者のライフ・ステージ別仕事に関する満足度



資料出所：JILPT「平成21年度日本人の就業実態に関する総合調査」データから作成

(注) 1) 項目の表示は、一部省略表記している。調査票上の表記は次のとおりである。

- 労働時間：「労働時間、休日・休暇」 ○作業環境：「作業環境（温度、騒音、禁煙、休憩設備など）」 ○人間関係：「職場の人間関係」
- 安定性：「雇用・就業の安定性」 ○能力開発機会：「仕事に役立つ能力や知識を身につける機会」 ○会社からの評価：「能力・実績に対する会社からの評価」

2) 点線で囲まれた項目は、「仕事全体」満足度を9つの項目別満足度で回帰したとき（OLS）、有意となった項目である。

その要因を探ってみると、雇用の「安定性」や「能力開発機会」の不足が背景にあるらしいことが確認された。これらは、若年期の雇用において非正規

化が進んでいることと関連があるが、同時に正社員に関する問題・課題でもあること、また、正社員特有の課題として「労働時間（の長さ）」があること

も確認される。「独身時代」とは、職業生活・生涯の初期に当たり、その基盤を形成するべき時期に当たる。その時期にある

人々がこうした問題を抱え、満たされない日々を送っていることは、労働政策の最重要課題の一丁目一番地として取り組むべき課題であるといえるので

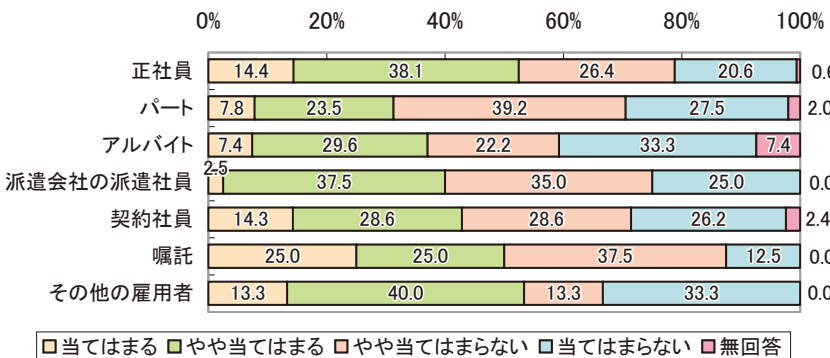
表1 雇用・就業形態別満足度（「独身時代」男性）

	仕事全体	賃金、収入	労働時間	仕事の量	仕事内容
正社員	-0.11	-0.46	-0.18	-0.17	0.05
パート	0.10	-0.90	0.00	0.20	0.20
アルバイト	-0.67	-1.13	-1.20	-0.73	-0.20
派遣会社の派遣社員	-0.75	-1.00	-0.09	-0.33	-0.67
契約社員	0.00	-1.14	1.00	0.21	0.29
嘱託	0.00	-1.20	1.20	0.60	0.80
その他の雇用者	-0.38	0.13	0.50	0.38	0.38

	作業環境	人間関係	安定性	能開機会	評価	生活満足度
正社員	0.02	0.25	0.07	-0.04	-0.24	0.06
パート	0.30	0.30	0.20	0.10	0.30	-0.50
アルバイト	-0.27	-0.20	-0.93	-0.47	-0.73	-1.13
派遣会社の派遣社員	0.00	0.33	-0.83	-1.08	-0.75	-0.62
契約社員	0.50	0.50	-0.71	-0.20	-0.14	-0.44
嘱託	1.40	0.40	-0.80	0.40	0.00	-0.20
その他の雇用者	0.75	0.75	-0.13	0.50	-0.50	-0.50

資料出所：JILPT「平成21年度日本人の就業実態に関する総合調査」データから作成

図3 雇用・就業形態別会社の能力開発への熱心度の認識



資料出所：JILPT「平成21年度日本人の就業実態に関する総合調査」データから作成

はないか。わが国では長い間、新規卒労働市場が良好なパフォーマンスを示してきたために、それをめぐる問題に対する対応への必要性の認識が弱いように思われる。過ぎ去って久しい良好な時代に職業生活・生涯のスタートを切った人々は、意識的にこの問題をフォローしているのではない限り、その記憶に無意識に縛られていることが多い。この問題への対応は、他の課題類型以上に、既定の思考枠組みを抑制し、純粹経験に遡った実態把握を行うとともに、この問題を真摯にフォローし続けてきている専門家の意見を尊重する

ことが重要である。
評価軸の棚卸し
 筆者は確認できたわけではないが、「寄らば大樹の陰」ということわざのとおり、依然、新規卒者を中心若い人々には大規模企業・銘柄企業指向の風潮があるといわれている。その真偽はともかくとして、「独身時代」の人々について、勤務先の企業規模別に満足度を確認しておこう（図4-1、図4-2）。まず、男性についてみれば、「仕事全体」満足度は、確かに規模が大きいほど満足度が高くなる（不満度

が小さくなる）傾向がみられる。しかし一方、「生活満足度」をみると、規模による傾向はあまりみられず、一〇〇〜二九九人規模が他よりもやや抜きん出て満足度が高くなっている。また、女性についてみると、男性とは逆に「仕事全体」満足度にはむしろ規模が大きくなるほど低くなる傾向がみられる一方、「生活満足度」は規模が大きくなるほど緩やかに高まる傾向があるが、一〇〇〜二九九人規模で他よりも満足度が高くなっていることは共通している。「生活満足度」ということに限れば、「独身時代」の人々の間では、中堅規模のやや小さな方の規模で働いている場合にもっとも満足度が高くなっている。

が図5である。就業希望で無業の人々の「生活満足度」の低さは、多くの場合群を抜いている。男性をみると、「父子世帯」(▼一・四〇)はもとより、「独身時代」(▼一・一六)や「夫婦時代」(▼一・三三)でも留保なしの「不満」域に重心がある。女性は無業で就業希望であっても満足方向にあることが多いが、その中であって「独身時代」では▼〇・七七とかなりの不満方向にある。
 働くことを希望しているにもかかわらず働くところがない人々が職に就けるようにすることが人々の満足度を高めるためのもっとも基本的な課題であり、これを改めて認識することを今回の調査結果は強く呼びかけている。

もとり、就職希望先の選択は本人の希望が優先されるべきものであるが、その場合にも、こうした冷静な情報も適宜提供され、先入主にあまりに左右されることなく選択が行われることが必要である。

古典的な課題

本稿の最後に、忘れてはならない論点に関するデータを提示しておこう。今回の調査では、現在就業している人ばかりでなく無業の人も対象にしている。回答者のうち男性は二二・一%、女性は三三・五%が無業であった。
 ライフ・ステージ別に無業者を就業希望の有無により分けて「生活満足度」をみたの

- (注)
- この調査は、「定点観測的調査」として今後数年おきに実施されることを前提として企画された。調査項目の設定については、稲上前JILPT理事長の下に数名の研究者も参加した検討委員会を開催し、ほぼ一年間をかけて検討された。
 - とはいえず、結果としてグループ分けされた層の年齢分布(五歳刻み)をみると、「独身時代」は二〇〜四四歳、「夫婦時代」は三〇〜四九歳、「育児・子育て期」は三五歳以上が多くなっている。なお、「父子・母子世帯」は四〇歳以上が多い。
 - 今回の調査では、二〇歳から六五歳までの人が調査対象となっている。
 - 簡単なモデルにより「生活満足度」を説明変数とする回帰分析(OLS)をした結果、「仕事全体満足度」は一%未満水準で有意で、その係数は〇・四九と高くなった。これ以外に有意となった項目には、企業規模(小規模勤務のとき係数マイナス)、パート・アルバイトであること(係数マイナス)、世帯収入(係数プラス)があった。
 - この調査の網羅的な報告として別途まとめら

図4-1 「独身時代」男性企業規模別満足度

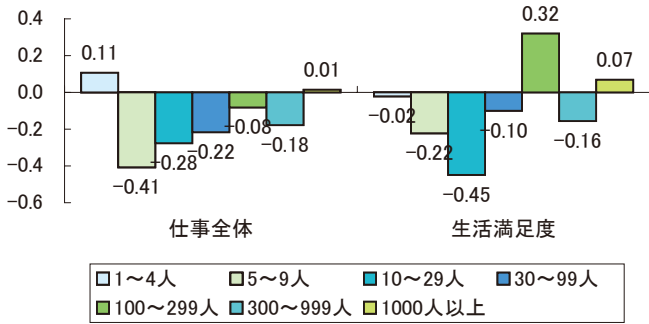


図4-2 「独身時代」女性企業規模別満足度

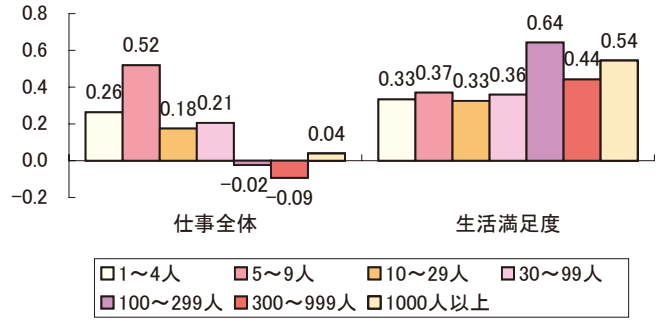
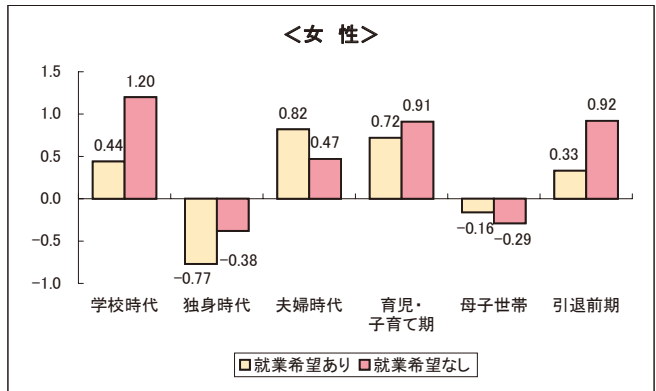
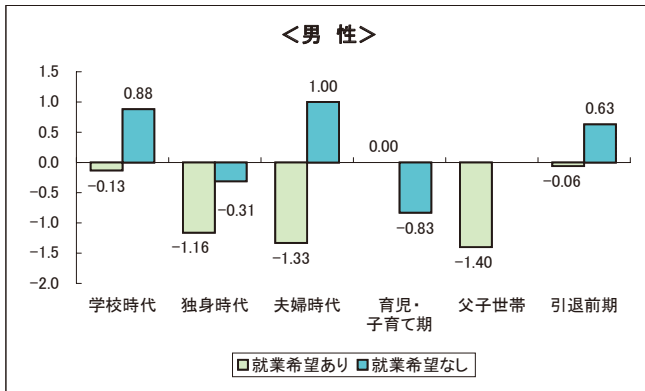


図5 男女無業者の就業希望の有無別生活満足度



資料出所：JILPT「平成21年度日本人の就業実態に関する総合調査」データから作成
 (注) 父子世帯では、「就業希望なし」は該当がなかった。

れる「調査シリーズ」において、例えば「父子・母子世帯」や「育児・子育て期」などについても、やや詳細に分析する予定にしている。

6. 図2の脚注にあるように、点線の楕円に囲まれた項目は「仕事全体」満足度を九つの項目別満足度で回帰したとき(OLS)、有意となった項目である。回帰の結果を整理すると、下表のようになっていく。

7. 水準を別として、仕事満足度体系の男女間での類似性は他のステージでもみられるが、とりわけ「独身時代」で強い印象を受ける。「独身時代」の男女は、他のステージよりも社会的な役割期待、したがって「ジェンダー」の影響が相対的に小さいことによるのかも知れない。

8. 「労働時間」満足度については、アルバイトの方がかなり低くなっている。ケース数が少ないので結論づけることは慎重でなければならぬが、正社員の場合には労働時間が長くなるほど「満足度」が低下するのに対して、アルバイトでは逆に労働時間が短くなるほど「満足度」が低下する傾向がややみられている。正社員とアルバイトでは、「労働時間」の問題の性質がまったく異なる可能性がある。

9. 「育児・子育て期」の男性無業者は、「就業希望あり」が○・○・○、「就業希望なし」が▼・○・八三と他のステージに比べやや変則的な結果となっている。このステージの無業者は一・九%を占めるにとどまり、調査としてもケース数も少ない面があるので確定的にいうことはできないが、「配偶者と子供」がいる場合には、「失業」中であつても「生活満足度」については、あまり低くはないという点も注目の点かも知れない。一方「就業希望なし」の背景には、健康状態など何らかの特別の事情があり、それが満足度を低くしているといったことが考えられる。

(参考) 「仕事全体」満足度を被説明変数とし、各事項別満足度による回帰(OLS)の回帰係数

	独身時代	夫婦時代	育児・子育て期	父子・母子世帯
	男 性			
賃金・収入	0.083 **	0.159 ***	0.064 ***	0.121
労働時間	0.079 **	0.027	0.054 ***	0.027
仕事の量	0.069	0.103	0.117 ***	0.173 **
仕事内容	0.281 ***	0.243 ***	0.231 ***	0.204 *
作業環境	-0.021	0.004	0.035	0.135
人間関係	0.076 **	0.099 *	0.108 ***	-0.218 **
安定性	0.103 ***	0.121 **	0.149 ***	0.146 **
能開機会	0.164 ***	0.043	0.052 **	-0.044
評価	0.274 ***	0.331 ***	0.256 ***	0.413 ***
使用ケース数	392	150	1,052	44
分散分析F値	81.955 ***	32.259 ***	215.273 ***	20.214 ***
調整済みR ²	0.651	0.654	0.647	0.801
女 性				
賃金・収入	0.043	0.135 **	0.080 ***	0.056
労働時間	0.111 ***	-0.008	0.046 **	0.045
仕事の量	0.049	0.074	0.084 ***	0.043
仕事内容	0.366 ***	0.200 ***	0.294 ***	0.310 ***
作業環境	0.026	0.048	0.030	0.055
人間関係	0.196 ***	0.123 *	0.142 ***	0.132 **
安定性	0.087 ***	0.035	0.116 ***	0.054
能開機会	0.056	-0.016	0.012	0.157 **
評価	0.140 ***	0.321 ***	0.219 ***	0.291 ***
使用ケース数	353	111	869	109
分散分析F値	79.897 ***	15.303 ***	187.280 ***	27.057 ***
調整済みR ²	0.669	0.539	0.659	0.685

プロフィール

あさお・ゆたか／一九五三年大阪府出身。一九七六年労働省入省。二〇〇一年から日本労働研究機構(現・労働政策研究・研修機構)。最近著書は、JILPT労働政策研究報告書No.一二七「妻からみた夫の労働時間」など。